

## 第10回日独地理学会議 「格差拡大時代における新たな文化景観の形成」

The 10th Japanese-German Geographical Conference: "Making New Cultural Landscapes in the Era of Growing Disparities"

2010年3月21日(日)から25日(木)にかけて都市研究プラザの後援のもと、第10回日独地理学会議を行った。第1回を1969年にドイツで行った歴史を有する日独地理学会議は、各回、両国の地理学者がドイツあるいは日本でシンポジウムと巡検を開催してきた。今回は「格差拡大時代における新たな文化景観の形成」と題して、大阪市立大学高原記念館にてシンポジウムを3日間、和歌山県新宮市、太地町などの巡検を3日間行った。

### ■シンポジウム

3月21日(日)～23日(火)のシンポジウムでは、日本(大阪市立大学、大分大学、神戸大学、金沢大学、広島大学、立正大学、九州大学)とドイツ(ドイツ日本研究所、ボッフム大学、ミュンヘン大学)から、合計9名の研究者が都市や地方における格差拡大問題について発表し、各課題について議論を深めた。4つのセッション「農山村の振興」、「社会的弱者のコミュニティへの包摂」、「変容する都市居住地に関する市街地の改善」、「工業地区の衰退と再生」では、各課題と問題意識に関して、多様な意見が交換された。

### ■Program

3月22日(月)

**Session 1:** 9:30～11:30 Promotion of Rural and Mountainous Regions:Chair: Nakagawa S. (Kobe Univ.) / Elis V. (German Institute for Japanese Studies) / Kamiya H. (Kanazawa Univ.)

**Session 2:** 13:00～15:45 Inclusion of the Social Disadvantaged to Communities:Chair: Mizuuchi T. (Osaka City Univ.) / Yui Y. (Hiroshima Univ.) / Kornatowski G. (Osaka City Univ.) / Obinger J.(Munich Univ., URP Research Fellow)

**Session 3:** 16:15～18:15 Redress of Built-up Areas Associated with Changing Urban Habitation: Chair: OBA S.(Osaka City Univ.) / Lützel R.(German Institute for Japanese Studies) / Ito T. (Rissho Univ.)

3月23日(火)

**Session 4:** 9:30～11:30 Revitalization of Declined Industrial Areas :Chair: Miyamachi Y. (Oita Univ.) / Hohn U. (Bochum Univ.) / Yamamoto K. (Kyushu Univ.)

### ■巡検

23日(火)、和歌山へ向い、熊野比丘尼に熊野三山の絵解きを受け、世界遺産となっている熊野信仰について学んだ。24日(水)は旧熊野川町の限界集落を見学し、旧町役場建物にてその社会的諸問題について説明を受けた。かつて盛んであった林業については筏師から川の利用や作業な

どの話を聞いた。午後は新宮市へ移動し、隣保館を中心としたまちづくり、若者の就労対策や学校と連携した子供の見守り等の事業とその課題や取り組みについて説明を受けた。また、新宮市における社会的諸問題について稲田七海(G-COE特別研究員)が発表した。隣保館を訪問し、水内俊雄(都市研究プラザ教授)が同和住宅地形成の背景を説明した。25日(木)ドイツ側の希望もあり太地町へ向かい、くじら博物館にてかつての捕鯨様式について、学芸員から博物館の展示や捕鯨史の説明を受けた。さらに、「古式捕鯨狼煙場跡」や「鯨供養碑」も訪れた。

### ■評価

日独地理学会議の5日間では、地方都市や過疎地域特有の社会問題を、それぞれの専門的見地から議論を深めることができ、高齢化や人口過疎問題が地域にどのような影響をもたらすのかが明確になった。また、巡検を通じて、どのような対策が求められているかが明らかになった。今後、大都市だけではなく、地方における社会的課題にも目を向け、さらなる社会的包摂理論を探究していくことが必要であると感じた。

■ ヒェラルド・コルナトウスキ(G-COE特別研究員)



新宮市の隣保館・児童館での白熱した議論

From March 21<sup>st</sup>(Sun.) through the 25<sup>th</sup>(Thu.), the URP sponsored and co-organized the 10<sup>th</sup> Japanese-German Geographical Conference. First organized in Bochum in 1969, the conference this time was held in Osaka and Wakayama. With the theme of "Making New Cultural Landscapes in an Era of Growing Disparities: Comparative Studies between Japan and Germany," there were 3 days of symposium and 3 days for a field trip to Wakayama Prefecture. Overall, this proved to be a great opportunity to learn more about the actual social conditions in regional areas and to use this experience to develop a more comprehensive approach to urban research and social inclusion.